

国連水会議 2023

2023年3月22日から24日にかけて、約1万人がニューヨークの国連本部に、あるいはオンラインで参加し、「国連水会議 2023」が開催された。水に特化した国連会議の開催は、1977年3月にマル・デル・プラタ（アルゼンチン）で開催されて以降、46年ぶりとなる。



UN
2023 WATER
CONFERENCE

NEW YORK
22-24
MARCH
2023

本会議は、SDG6を始めとする水関連の国際目標の達成に向けた行動を加速化するため、国連にて設定された『国際行動の10年「持続可能な発展のための水」2018-2028』の中間評価（レビュー）の場として開催された。

ICHARMは、本会議に先立ち21日に開催された「第6回国連水と災害に関する特別会合」における「科学技術パネル「水、災害リスク軽減、気候変動の連携のための科学技術の応用事例ショーケース」の企画立案および運営を主導した。本パネルにおいては、小池センター長がモデレーターとなり、「水循環の知の統合の促進」、「ファシリテータの育成」、「End-to-Endのアプローチ」などに関する世界各地の取組を紹介した。

23日に開催された、エジプトと日本が共同議長を務めるテーマ別討議3「気候、強靱性、環境に関する水」においては、共同議長提案にICHARMがこれまでの国際会議で主張してきた上記概念が提言（Key Messages）の一つに盛り込まれた。

さらに、本会議の重要な成果である「Water Action Agenda（水行動アジェンダ）」において、ICHARMが提唱している「Water Cycle Integrator」がコミットメントとして盛り込まれるなど、国際社会における水防災の主流化に貢献した。

詳細は、下記 ICHARM ニュースレター第69号の記事をご覧ください。

https://www.pwri.go.jp/icharm/publication/newsletter/pdf/icharm_newsletter_issue69.pdf



写真 第6回国連水と災害の特別会合科学技術パネル登壇者による集合写真